

# 平成22年度 福岡市地下水汚染対策委員会議事録

平成22年11月30日（火）15：30～  
市役所15階第2会議室

## 議事

### 1 委員長の選定

井上委員長，島田副委員長に決定

### 2 地下水概況調査で判明した汚染の概況及び原因調査結果について

#### (1) 博多区青木 【硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素】環境基準超過

##### ◆委員の主な意見

- ・地歴からも，田畑への窒素肥料の施肥等が汚染原因と考えられる。
- ・過去の硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素汚染事例を鑑みると，汚染原因を解消したとしても，すぐには基準値をクリアするようにはならない。
- ・環境基準以下であった周辺井戸も硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の値は高いので，地域全体の濃度が高いことが考えられる。

#### (2) 早良区西 【ふっ素】環境基準超過

##### ◆委員の主な意見

- ・地質的に県内全域でふっ素は検出されており，花崗岩中の黒雲母からふっ素が溶出するという，地質由来の自然的原因であると考えられる。
- ・ふっ素が環境基準値を超過した井戸の水質は停滞的環境の地下水であり，イオン分析からも深井戸であることが分かる。

#### (3) 西区戸切 【硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素】環境基準超過

##### ◆委員の主な意見

- ・硫酸イオンも高いので典型的な肥料由来の汚染であると考えられる。
- ・採水を8～9月に行っており，雨が降った後の時期なので，検出値は雨水の希釈効果が影響していると考えられる。特に浅井戸は雨水の影響を受けやすく，採水時期によって検出値が変動するのでこの地域が平成15年度より濃度が低下しているかどうか明確ではない。

#### (4) 西区生の松原 【鉛】環境基準超過

##### ◆委員の主な意見

- ・花崗岩の地質から鉛が出たのは大変珍しく原因究明は難しい。
- ・全国の概況調査でも鉛の基準超過件数は年間3,000件以上のうち10件程度である。
- ・今回のように局所的に汚染が出た場合，通常人為汚染を考える。現在のデータだけでは地質由来とは考えられない。

### 3 飲用の指導・今後の対応について

##### ◆委員の主な意見

- ・ふっ素の水道水質基準については日本では0.8 (mg/L)，WHOの飲料水ガイドラインでは1.5，アメリカのEPAでは2.0，他国で見ると0.7～2.0の範囲内である。
- ・ふっ素の健康影響としては，過剰摂取による斑状歯の発現が知られているが，発ガン性等の健康影響の報告はほとんどなく，本地区の検出値で通常の利用であれば問題ないとする。

### 4 その他

地下水の水質汚濁に係る環境基準の改正（H21.11.30告示）について説明。